

平成 28 年 4 月 19 日

愛媛大学長殿

プロジェクト代表者 氏名	法文	学部・研究科	人文	学科・課程
	倉瀬博成			
指導教員氏名	所属 法文学部人文学科観光まちづくりコース(社会共創学部)			
	井口梓			

プロジェクト名：日本遺産・四国遍路をめぐるリビング・ヘリテージの再評価と情報発信
－内子町臼杵を事例に－

調査・研究の概要：

1. 問題意識：本プロジェクトでは内子町臼杵を対象地域とし、四国遍路をめぐるリビング・ヘリテージ(生きている遺産)について調査研究し、情報発信することを目的としている。その際、点的(札所)、線的(巡礼路)に価値を捉えられがちな四国遍路を「面的」に捉え、四国遍路の価値を地域に受け継がれる生活文化の中で再評価したいと考えた。
2. 目的：内子町小田地区の山間部に位置する臼杵自治会を事例に、遍路道と四国遍路めぐり地域の「生きる文化」の収集調査とその価値について研究することを目的としている。
3. 方法：臼杵自治会および大宝寺に至る遍路道にて、遍路沿いの景観資源と遍路文化に関する聞き取り調査を実施し、地図に記録する。また、先進事例である長崎県教会群の保存・活用の手法について比較研究を実施する。最終成果として調査内容をまとめ、地域に生きる遺産(リビング・ヘリテージ)の価値を発信するガイドマップを作成する。

研究成果：(800字～900字程度)

本研究は内子町臼杵を事例に、リビング・ヘリテージの観点から四国遍路の再評価に取り組んだ。リビング・ヘリテージとは人間の営みに関連する文化・文化や自然の総称であり、臼杵自治会の調査では家屋や田畑、信仰対象、生業などの景観調査と資源にまつわる聞き取り調査を実施した。臼杵の遍路道沿いには林業や農業など生業と斜面地を活用した棚田がみられ、人の暮らしと自然環境のかかわりが垣間見える景観を記録した。また信仰では、郷社である三島神社に加え、「新四国さん」や大師堂など、遍路にまつわる文化資源もみられ、多くは住民主体による管理継承がおこなわれていた。臼杵から大宝寺に至る遍路道では、二名川の河岸段丘面に作られた田畑や、植林域と製材所など地域固有の景観や、門前町でもある久万町商店街には、四国遍路に関わる構成資産として道標やお接待場について記録することができた。

これら信仰の場を保存活用する仕組みとして、本研究では先進事例として長崎の教会群とキリスト教関連遺産の調査を実施した。教会群には「集落」の中に住民の共同の祈りの場として建てられたという歴史性と、現在も祈りの場として機能している文化性がある。これを軸にして信者による「教会守」を設置し、教会の保護・管理をおこなっていた。教会守は集落で生活する中で、信仰として教会を使用し、外部者に教会を開くことにより、自身のアイデンティティや教会の信仰的価値を発信し、教会の「生きている価値」を伝えていた。

四国遍路に置き換えて考えると、今回の調査の結果、遍路は寺院と巡礼路のみならず、それらを取り巻く住民の文化的景観が存在しており、これらを包括的に保存することが重要である。また、これら四国遍路にまつわる人間の営みそのものを価値づけるリビング・ヘリテージについて、その対象が何であるのかを外部に発信することもまた必要である。以上の成果を踏まえ、本研究では地域におけるリビング・ヘリテージの価値について地域住民や外部者(巡礼者)と共有するために、遍路道の景観資源や生活文化をまとめた遍路マップを作成した。今後、お接待で配布して、さらなる再評価の作業を行う予定である。

今後の課題：(400字程度)

今回の研究では内子町小田地区臼杵自治会の遍路道沿いにおけるリビング・ヘリテージとしての価値を明らかにすることができた。一方で、本研究では自治会単位を対象地域としたが、あくまで遍路道全体の一部であり、四国遍路道全体を視野に入れて研究する必要がある。加えて、指定されている遍路道以外にも遍路文化が息づいていることも明らかとなったため、遍路道に隣接する地域の調査研究も必要であろう。また、今回の研究対象地域は内子町から久万高原町にかかる四国山地を対象としたため、都市部や沿岸部など、集落の様相が異なる地域でも調査を実施し、比較研究によって差異を明らかにすることで、さらなる遍路道の価値が明らかになると考えられる。今回の研究ではリビング・ヘリテージについて検討したが、一方で今後の活用や保存について十分に検討することができなかった。この点は、5月に予定している遍路マップの配布を通して地域住民や巡礼者とともに考えたい。

指導教員からのコメント

今回、臼杵自治会や久万高原町の方々の協力を得て、遍路道の調査を丁寧に行うことができた点は評価できます。土砂崩れで旧道が不通になり、予定とは異なる農祖峠越えのルート进行调查したことが限定された遍路道にとどまらず、リビング・ヘリテージの範囲(遍路と生活文化を結ぶ空間的範囲)を再度考え直す良い機会になったと思います。課題で挙げた点を踏まえ、より深く追及してください。